

「30歳成人説」は豊かな時代の証



黒沢一樹

NPO法人若者就職支援協会理事長

30歳成人説なんて聞くと、今の若者は能力がないように聞こえますが、実際は彼らの頭は良いのです。大人は彼らの可能性を大いに広げてあげて、若者は色んなことに挑戦してみるべきだと思います。

親以外の大人との関わりが少なくなつた子供達の現状

今の子供達に、普段の生活で会っている大人の種類を尋ねると、親が学校の先生か、塾の講師か、あとコンビニの店員と答えます。それぐらいいしか彼等の周りには大人がいないわけです。そうすると親からの情報しかない。他の意見を取り入れようとしても親以外から入る情報が少ない。

また、親の側も子供が他の大人と接していないことを知っているから、自分がなんとかしてやらないと

という意識が働くわけです。私も結婚して8年経ち、3歳と1歳の子供がいるので、親の目線は分かります。子供は確かに可愛いです。それは分かります。

親の子供を思う気持ちを理解した上で、引きこもり気味の息子さんのこととで相談があった場合には、親御さんに対して、「今から息子さんに話しかけるのを止めてください」と言います。

息子が引きこもってしまつて、寂しいだろうから私が何とかしてあげなくてはいけないと、会話を親側からアプローチしてしまつ。結局その

時点で子供は親に依存してしまつたことになります。まず、話しかけるのを止めてもらいます。ただ、どうしても必要な質問はしてもよいですと言っています。

取り組み始めてから、だいたい3日くらいは会話がなかつたようですが、3日も経つと子供のほうから「おはよう」と言い出したようです。異変を感じ、自分から声をかけてくるようになる。寂しくなるからですかね。

この、自ら声をかけるといふことはすごく重要なことです。そうして会話が徐々に増えて行く。自分で考